

佳作

究極のスポーツへの道

秋田県能代市立能代第一中学校

3年 阿部 龍太郎

私が今、夢中になって挑戦していることは、フリスビーです。と言っても、ただ遊んでいるわけではありません。フリスビーを使った「アルティメット」という7対7で行うチームスポーツで、将来プロ選手になるという大きな夢を抱き、日々練習に励んでいます。フリスビーとの出会いは、100円ショップで面白そうだと目に留まったことでした。外に出て投げたときに、思いのほか遠くまで飛ばせたことに興奮が止まらなかったことを今でも覚えています。友達と無邪気に投げ合っていたあの頃は、ただの遊びだったフリスビーが、まさかこんなにも自分の人生を熱くする存在になるとは、想像もしていませんでした。

そんな私がアルティメットを知ったのは、中学校に入ってユーチューブで偶然見かけたプロの試合の動画がきっかけです。縦100m、横37mという広大なフィールドを選手たちが走り回り、風を読んでフリスビーを操り、パスを繋いでいく姿を見た瞬間、鳥肌が立ちました。「こんなにカッコいいスポーツがあったんだ！」と、心を奪われたのです。また、その試合の途中、一人の選手がチームのピンチを見事なロングパスで救った場面を見て、僕もこのくらい熱いフリスビーをしたいと強く感じました。そこから僕の「究極のスポーツへの道」が始まりました。そして今、プロになるという夢をかなえるため、三つの大きな挑戦を続けています。

一つ目はプロアルティメットプレーヤーの動画を見て投げ方を研究することです。フリスビーには大きく三つの投げ方があり、それぞれの投げ方をいろいろな人の動画を見ながら投げ方の一つ一つを真似てみたり、投げやすいように自分でアレンジしたりして投げることをしています。最初はどの投げ方をするのも苦労していたのですが、たくさんの動画を見てアレンジしたり、繰り返し練習したりすることで、今ではどの投げ方でもある程度遠くまで飛ばせるようになりました。今は三つの投げ方の一つであり僕が最も苦手としている「ハンマースロー」を重点的に練習しています。いつか100m先の味方にも正確に届けられるような究極のスローを身につけたいです。

二つ目は走りながらのパス練習です。アルティメットは縦100m×横37mのかなり大きなフィールドで常に走り、パスをつなげゴールに向かう競技なのですが、落としてしまったり、場外に出したりしてしまうと相手の攻めるターンになってしまうので正確なパスを投げたり、取ったりしなければなりません。

さらにアルティメットにはマーカーと呼ばれるパスを妨害する人がいるため、さらに高い技術が必要になってきます。そのため最低2人で向かい合いフリスビーを持っている方ができるだけずれないように相手側に投げ、取る側が投げられたそれを走って取りに行く、というのを交互に繰り返して練習しています。あさっての方向に飛んで行ったり、取りこぼしてしまったりということもたくさんあるのですがだいぶコントロールが効いてくるようになったので、そろそろ本番のようにマーカーを付けてワンランク上の練習もしたいと思います。

三つ目は風向きを読み取ることです。アルティメットは屋外で行われるスポーツで風を読み、その風に乗せパスをする、跳んだり走ったりしてパスを受け取り、ゴールするというスポーツのすべてが詰まった究極の競技として名付けられました。そのためアルティメットは風が運命を左右するといってもいいようなスポーツなのですが、フリスビーはボールよりも風にあおられやすいため風に考慮しながらプレーするというのはとても難しいのです。そのため、僕は風がどこからどのように吹き、どのように投げたらうまくパスできるかを計算してプレーできるようになれば実際の試合でもかなり有利になると考えたため、最近では風が弱い日や強い日に投げたりして、いろいろな風を経験しどんな風でも対応できるように練習しています。いつかは風を読んで高度なロングパスを出せるようにしたいです。

この三つの挑戦の他にも、基礎体力向上に必要な体力をつけるためのトレーニングも欠かせません。走り込みや、ジャンプ力を鍛えるための垂直跳びなど、地道な努力を続けています。今はまだ、僕の体も、周りの環境も、プロの世界にはほど遠いです。でも、アルティメットという夢中になれるスポーツに出会えたこと、そして「プロになる」という目標を持てたことを、とても幸せに感じています。これからもっともっと練習して、いつか世界一の舞台上でフリスビーを投げる自分を想像しながら、これからも「究極のスポーツ」への道を歩み続けたいです。